

## 第 14 回企画委員会議事要旨

日時 2020 年 2 月 25 日 18:00～20:00

場所 日本財団 2 階第 8 会議室

出席者

(企画委員会委員、オブザーバー、部会委員)

駒村委員長、丸物委員、村木委員、久保寺委員、池田委員、奥田委員、

山田全体委員会委員、西岡正次氏(A'ワーク創造館就労支援室長)

(上記以外の出席者)

日本財団、ダイバーシティ就労支援機構

【西岡正次氏(A'ワーク創造館就労支援室長)からの報告

ー「働きづらい人々のキャリアラダー・モデルの創設 ー大阪地域における態様横断的  
就労支援モデル 2.0 の創出」ー(資料 1)

### 1. Work ! Diversity 事業と大阪地域のモデル事業のねらい

#### (1) 態様横断的な社会制度の構想と支援システムの検討

○ 3つの段階を想定し、地域モデルとして検証する

①支援活動はあるが、ネットワークが未整備な段階 (A)

②支援活動団体が「協議会」等を組織し、支援活動の交流や自治体等との連携を指向する段階 (B)

③態様別支援活動がもつ専門性や特徴等を交流させるほか、ケース支援の連携、共同事業の企画実施、さらに地域課題(自治体や企業との役割分担等)を意識したソーシャル・アクションなどが行われる段階で、ネットワークを支える事業体(機能等)が構想される段階 (C)

#### (2) 支援活動組織のネットワーク

○ 地域や態様別支援団体における就労支援の目標、そのために必要なネットワーク(自治体内の連携、企業との連携、企業間連携)の機能、さらにネットワークを支える事業体)について議論、検証する。

#### (3) 態様別支援方法のマニュアル化

○ 態様別就労支援の分野は、障害者支援のほか、若者支援、高校生世代支援、ひとり親・女性支援、高齢者支援、ホームレス支援、外国人支援、生活困窮者支援等が考えられる。

#### (4) 障害者就労支援事業所のダイバーシティ化研修(事業運営及び支援の人材養成等)

○ 障害者就労支援事業所について、ネットワークの中心となる団体等のスタッフを対象に、多様な対象の就労支援(ダイバーシティ化)に問われるスキル、支援人材の育成、相談支援事業の運営、就労にかかわる資源(雇用先・体験等受け入れ先)の開拓・支援メニューの開発、資源管理、「ネットワーク事業体」の運営、国等の支援施策などについて、習得すべき事項や論点等を整理し、試行的に人材養成研修を行う。

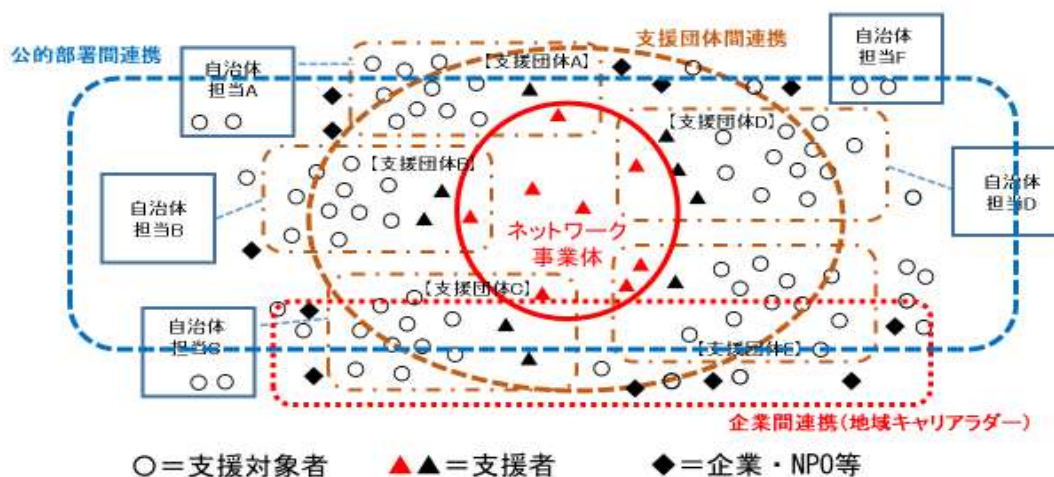
(5) モデル事業による検証（就労支援の効果と課題、多様な要素（課題）への対応可能性ほか）

## 2. モデル事業のねらい

- ①上記1のねらいに対応し得る地域の取組みが問われている
- ②現状分析というより、上記1にかかわる地域モデルの探索と課題整理が重視される
- ③既存の就労支援活動と活動団体、そのネットワークについて、上記1－(1)、(2)、(3)に資する検証データと1－(4)の人材養成に資する取組みが問われる
- ④モデル事業を行う地域には、
  - 1)態様別の就労支援の取組みが存在すること（民間団体、自治体等の公的部門ほか）
  - 2)何らかのネットワークあるいはその萌芽があること
  - 3)このモデル事業に関心があること、  
などが考えられる。

## 3. ネットワーク事業体が整備されたイメージ

### G ネットワーク事業体整備の段階～ネットワーク事業体と中軸団体の役割～



#### 【事務局からの報告】

事務局から、「障害者雇用促進法」、「障害者総合支援法」、その他の関連する雇用・訓練施策等現状施策にはどのようなものがあるか、「就労関係施策の整理表」(事業ベース)(資料2)に基づき説明をした。さらに、対象者類型別にどのような支援策を組み合わせるのが効果的か、たたき台(資料3)を作成し説明した。

#### 【意見交換】

以下のような意見があった。

○働きづらい人々のキャリアラダーの構築は重要であり、モデルの構築を期待する。

○第2回 Work! Diversity フォーラム(6月開催予定。なお、現在の新型コロナウイルス関連の緊急事態を踏まえ、開催の是非を検討中。)は本プロジェクトを大きく宣伝するいい機会である。